

先進地紹介

公共交通を軸としたコンパクトなまちづくり

～ 富山県内における LRT をめぐる交通まちづくり ～

下妻市建設部都市整備課 主事 早川 隼 登

■はじめに

令和4年10月12日、都市計画協会主催の富山市会場のまちづくりセミナーに参加しました。LRTの導入や、広場、施設の整備によってコンパクト・プラス・ネットワークを実現している富山市の取り組みを紹介します。

■富山市のコンパクトシティ政策とLRT化

富山市でも他自治体と同様に人口減少、少子高齢化や過度な自動車依存、中心市街地の魅力喪失などの課題を抱えていました。そこで、まちづくりの基本方針を「コンパクトなまちづくり」とし、それを実現するための3本柱を、公共交通の活性化、公共交通沿線地区への居住推進、中心市街地の活性化と決めました。

(1) 公共交通の活性化

利用者の減少が続いていたJR富山港線（鉄道）に公設民営の考え方を導入し、富山ライトレールとして整備することで、日本初の本格的LRTとして蘇らせました。



整備されたLRT(環状線)

市内電車の環状線化にあたっては、日本初となる上下分離方式を導入し、軌道整備を行いました。

第2期事業では、南北の軌道の接続を行い、富山駅の総合交通結節点機能が強化され、来街者や高齢者など誰でも利用できる、利便性の高いLRTネットワークが完成し、公共交通の利用者の増加につながりました。

(2) 公共交通沿線への居住推進

良質な住宅や宅地を供給する事業者や、住宅を新築・購入し居住する市民への助成を実施しています。

(3) 中心市街地の活性化

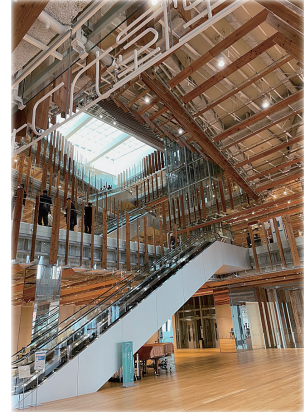
グランドプラザは富山市の中心市街地活性化基本計画の1つとして、隣接する立体駐車場と商業施設の2つの市街地再開発事業と一体的に整備を行ったもので、中心市街地の賑わいを創出することが目的のガラ



グランドプラザ内観

ス屋根が特徴の全天候型の広場です。

TOYAMAキラリはガラス美術館と市立図書館などが入る複合施設です。繊細な陰影や透明感を持たせた外観と、富山県産の木材など、自然素材を用いることで、ぬくもりを感じる内観となっています。中心市街地に位置することから、まちなかの新たな魅力創出を担っています。



TOYAMAキラリ内観

さらに、市内在住の65歳以上の高齢者を対象に市内各地から中心市街地へ出かける際の公共交通機関を1乗車100円で利用できる「お出かけ定期券」は、高齢者の約24%が所有し、1日あたり約2,750回、約1,400人が利用しており、年約18億2千万円（参考値）の医療費削減が図られました。

■コンパクトなまちづくりの効果

まちづくりの効果として、地価の上昇が見られます。富山県全体での地価平均は、平成5年以降下落傾向にありますが、富山市では令和2年度まで6年連続で上昇し、そこから横ばいとなっていたところから再び0.4%上昇に転じています。商業地は、富山駅周辺や環状線沿線を中心に12地点で、住宅地は市内の29地点で上昇しました。

■おわりに

富山市は、コンパクトシティ施策とLRT化によって人口減少、少子高齢化の中でも過ごしやすいまちづくりや中心市街地の活性化を進めており、地域課題を解消していくことができるまちだと感じました。

茨城県や下妻市も自動車保有率は非常に高く、課題としては富山市と類似しています。LRTを導入するのは、下妻市の現状では現実的ではないですが、市にあるもの、それをどう活かすのかという中で基本方針や柱を定めて、実行していくのは参考になり、とても有意義な研修でした。

